

成田への道—安食街道（前編）

江戸時代の松崎は交通の要所



写真1: 大竹の道標

「昔の街道を歩いて新勝寺まで行きたいのですが栄町との境界から成田山までの道を教えてください」という手紙が広報課に寄せられました。

江戸時代、成田不動尊への信仰が盛になると、人々はさまざまな道を通って成田山へ参詣に訪れました。代表的なルートには①市川—船橋—佐倉—成田

②江戸川を上り関宿に出て、利根川を船で布佐—木下—安食まで下り、そして徒歩で大竹—松崎—山口を通り新勝寺③佐原—大栄—寺台から新勝寺、の三つでしたが、その他の道の所在も確認されています。今回のお便りは②の安食街道と呼ばれた道で、資料片手に安食から新勝寺までを歩いてみることにしました。

安食から大竹地区までは印旛沼を右に、成田線を左に見ながらの平坦な道が続きます。下総松崎駅手前の踏切から約10分歩くと成田西陵高校入口の案内板の反対側にある「東なりた・しば山、西あじき・りうゲ崎、北なめ川・さつら、南 青面金剛」と刻まれた道標(写真1)があります。そこを過ぎ間もなくすると松崎地区に入るS字の坂道。寿司屋の手前を右に折れ松崎保育園前を通る細道が旧街道です。道幅が急に狭くなり、安食から成田に向



写真2: 安食街道最大の難所といわれた松崎台地への坂道

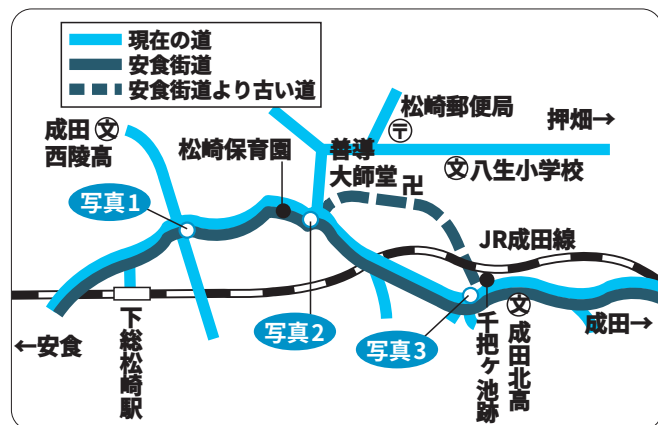
かう街道最大の難所といわれた坂道(写真2)です。孟宗竹の藪に覆われ、傾斜がきつく現在はその一部が階段になっているほどです。保育園ができてから舗装されましたが、それ以前

はもっと急な坂で、この上に茶屋もあったといわれています。登り切ると現県道に出てすぐにT字路です。右に曲がると成田へ、左は押畑に出て滑河(下総町)に向かう道です。また、県道を横切り善導大師堂前に出て、八生小学校の南側の細道を下り、現在の湯川車庫バス停付近に建つ千把ヶ池跡の地藏菩薩像前(写真3)へ出る道は、安食街道より古い成田への道と考えられています。

ところで、安食と成田の中間に位置する松崎は、押畑、宝田、龍角寺(栄町)などへ行く分岐点でもあったため、交通の要所でもあり旅人の休息所でもありました。江戸時代末期の安政七年(1860)、村の商売を記した「松崎家名書」には旅籠屋・荷鞍屋・馬喰のほか20種類もの食料品を商う店が書かれています。成田詣の旅人が増え、さまざまな農閑商いを営む村人が現れ松崎は町化した村に変わりました。そして、明治も中ごろになると現在の県道が作られ、難所を通ることなく成田山へ行けるようになりました。(後編は山口から新勝寺です)



写真3: 千把ヶ池跡の地藏菩薩像。左は道標を兼ねた二十三夜供養塔



編集後記

早いもので伝言板にはもう成人式のお知らせが掲載されています。いつもの年は対象者の生年月日と自分のそれを見比べてため息をつく程度でしたが、今回は事情があってこの小記事に目が留まることに。私事で恐縮ですが、いつ

の間にか娘が当事者になってしまったのです。成人式は絵になり易く、広報マンにとっては楽しいイベントの一つ。とはいえ仕事で身内を撮るわけにはいかず…。今度ばかりは同僚に取材をお願いするかなさそうです。